



Fortitudo · Devotio · Observatio · Autonomia

芝学園同窓会報

Vol.96 2010

発行日 平成22年12月20日

発行 芝学園同窓会

発行人 吉田弘正

編集 同窓会会報委員会

印刷 共立印刷株式会社

芝学園同窓会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-37 芝学園内

TEL&FAX 03-3432-5994

http://www.shiba-ob.net

『遵法+自治=芝 ～渡辺海旭先生校長就任から100年～』
芝学園同窓会第44回大会開催のお知らせ

日時：2011年6月11日（土）午後3時（総会と同時開催）

場所：東京プリンスホテル

本大会は61回生を中心とした末尾「1」の期の担当となります。大会実行委員は既に数回にわたって会合を持ち、標記主題（キャッチフレーズ）を決め、大会プログラムの素案及び予算案をまとめました。そして理事会にこれを報告しております。その際、渡辺海旭先生の薫陶を直接受けられた大先輩より、「是非心に残る会にしてほしい」という激励の言葉を頂き、いたく感動いたしました。

大会が開催される2011年は芝学園の「建学の父」と称される渡辺海旭先生が着任された年から100年目にあたる記念すべき年です。また芝学園同窓会はその翌年100周年を迎えます。

こうしたことから主題を「遵法+自治=芝」と致しました。

「遵法自治」は渡辺海旭先生が芝学園の生徒に掲げた校訓であり、全卒業生に託された基本的な精神であることは言うまでもありません。当日は、身をもって「遵法自治」の人生を貫かれた先生の足跡を辿るゆかりの品の展示も行います。また、ある意味で人間の自治を小説の中で表現してきた北方謙三氏（61回）の講演があります。そのほかにも楽しい企画を検討中です。第44回大会が皆様にとって有意義で楽しい会となるよう、実行委員会は残り半年の期間全力をあげて準備します。皆様お誘いあわせの上、またご家族も伴われて是非ご参加下さい。

第44回同窓会大会実行委員長 吉田隆男（61回）

副会長への選任をお受けして



同窓会の副会長に選任いただき、光栄に思っています。

しかし、それ以上に、大いにとまどっているというのが正直なところです。

社会人になってから外国生活が長く、同窓会とはほとんど無縁に過ぎてきたからです。

卒業してから52年。現在71歳。何事につけ、若返りや新しい発想が求められる昨今、私の副会長就任は時代に逆行しているとも感じています。

それでもお引き受けすることにしたのは、2年先輩の石垣さんに言われたからです。私の時代の芝では、先輩の言われることに従うのは当たり前で、そのことは、卒業から半世紀以上経った今も変わりません。

同窓会のために長い間力を尽くしてきた、宮島君をはじめとする同期の仲間から背中を押されたことも、副会長をお引き受けすることにした大きな理由です。

われわれの期では、有志が毎月一回集まっています。その名も「月一回」。よく飽きないかと、われながら不思議に思うこともあります。月に一回、楽しく飲みながら話をして、次回を楽しみに別れることを繰り返しています。

中学、高校時代をともに過したという意識が、何でも言える雰囲気を作り出すからですが、各々が積み重ねて来たさまざまな人生経験も加わって、気持ちの良い、しかも、充実した時を過ごせます。勿論、病気と健康の話も出ますが。

同窓会のあり方については、さまざまな意見があると思いま

すし、特に、20台から60台にかけては、仕事や家庭、子育てなどに忙しく、個人的に親しい友人との付き合いは別にして、同窓会どころではないというのが本音でしょう。私の場合もそうでした。

それでも、芝の卒業生だという誇りは、常に心の中にありました。42年弱におよんだ「役人生活」、「外交官生活」の中で、マスコミや企業の人達から、よく、「役人らしくない」と言われましたが、そのたびに、江戸の下町の子の気風を残した、芝の友人達との付き合いのお蔭と思ってきました。

その仲間達と会いながら同窓会のことを考えると、こういう付き合い方が、年代、世代を超えて、いわば「タテ」につながるようになると、同窓会の楽しさもさらに深まるのではないかと思います。

それにもう一つ。芝の卒業生の子供や孫が入学しやすくなる方途はないものかと、長年考えてきました。同窓会の仕事ではないかもしれませんが、私立として、二代目、三代目、あるいは四代目の生徒がいることも一つの特徴となるでしょうし、同窓会と学校をさらに近づけることになるのではないかと考えます。

吉田会長のお手伝いをして、同窓会を一層楽しい集まりにするよう努力いたしますので、御協力、御支援をよろしくお願い申し上げます。

佐藤行雄（53回）

（日本国際問題研究所 副会長・元国連大使）

松柏凋まぬ 母校歳時記

暑かった夏から秋に入り、母校の周囲でもイチョウなどの紅葉がとてもきれいです。先日のAPECの開催時には母校の周囲でも厳重な警戒のため、多くの警察官が警備をしていました。今回は4月中旬から10月までの母校の様子をお伝えします。

- 最高委員選挙・生徒総会 (4月16日)
今年には高校1年生2人、2年生4人が立候補しました。投票の結果、高校2年生3人が最高委員になりました。
- 運動会 (4月30日)
今年も「としまえん」で開催しました。おかげさまで天候に恵まれました。
- 中1校外学習 (6月11日)
天候に恵まれて真鶴半島で海洋生物の観察をしました。
- 高2修学旅行 (13日から18日まで)
今年には坂詰が引率しましたので詳しくお知らせします。
- 13日 羽田空港から那覇空港に移動して、美ら海水族館や佐喜真美術館を見学しました。夕食後、ひめゆり資料館の館長から貴重な体験談を伺いました。
- 14日 ひめゆり資料館、平和の礎、平和祈念資料館などを見学した後、石垣島と宮古島にわかれて移動しました。
- 15日 それぞれの島や別の島に移動して、カヌーやダイビングなどを体験しました。地元のみなさんとの交流会を実施したグループもありました。
- 16日 石垣島から宮古島、宮古島から石垣島へ移動しました。
- 17日 15日とほぼ同じです。
- 18日 それぞれの島から本島に移動して、那覇の国際通りで自主研修の後、羽田空港に戻りました。梅雨が明けていませんでしたが、概ね天気には恵まれました。
- 中1臨海学校 (7月下旬から8月上旬)
クラス毎で2泊3日の竹岡臨海学校がありました。
- カナダ研修 (7月23日から8月5日)
生徒24人はホームステイをしながら午前中は語学研修、午後は様々な活動をしました。
- 校外学習 (中2・高1)
夏休みの後半に中学2年生は秩父へ、高校1年生は富士登山に行きました。
- 学園祭 (9月11・12日)
今年も暑い中、多くの方々にご来場いただきありがとうございました。おかげさまで入場総数は約1万5千人でした。大混雑のためにご不便、ご迷惑をおかけしたことと申します。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

母校協力部 坂詰貴司 (81回・数学科)

生徒会に補助金支出

11月12日(金)の昼休みに同窓会室において、生徒会の幹部を招き、今年度の運動会および学園祭補助金を伝達した。昼の休み時間という慌ただしい受け渡しではあるが、



生徒諸君が同窓会活動に関心をもってくださるきっかけになればと思う次第である。

前列左より、松浦浩道財務部長(70回)、吉田弘正会長(51回)。後列左より、広沢広母校協力部担当(62回)、6E宮本廣大運動会副実行委員長、6B田口裕基運動会副実行委員長、6A江橋亮太郎運動会実行委員長、5H藤本佑真

学園祭副実行委員長、5G廣瀬涼太学園祭実行委員長(最高委員)、5F吉田誠学園祭副実行委員長。敬称略

財務担当理事 広沢 広 (62回)

大畑先生を偲んで



大畑実先生が2010年9月30日、71歳にて亡くなりました。

数年前に大病を患われたとのことですが、小康を得られてまだまだ大丈夫と思っていた矢先の病状の急変に、奥様もご令嬢も深い深いお悲しみのご様子でした。実際、亡くなる前日には、奥様に「明日は自分の病院へ行けよ」と逆に気づかうほどの状態で、まさかこれが最期の言葉になるとは思ってもいなかったとお話してました。ただ、告別式の大畑先生は本当に幸せそうで安らかな顔でした。

大畑先生と奥様がどれだけ芝学園を愛してくださったかが、参列者に渡された奥様の御会葬御礼のお手紙からも察することができます。ここにその一部をご紹介します。

『港区芝中学・高等学校で30年以上、教鞭を執っていた夫。

生徒さん方との触れ合いを大切に、英語教師として日々を輝かせておりました。充実した表情で帰宅する夫の顔を見ると、私まで嬉しく感じられたものです。ただひたすら真っ直ぐに進む姿は、とても頼もしく、この人と夫婦の誓いを立てて良かったと思えた遠い日も色鮮やかによみがえります……今はただ私たちに心配をかけまいと闘病生活を気丈に戦い抜いた夫へ「さようなら」のかわりに「ありがとう」を贈ります。』

33年前、大畑先生は私の高3の担任でした。受験勉強のはかどらない私に先生はいろいろと進路指導をしてくださりました。そのお陰で今の自分があり、ついには仲人までお願いした際も快く受けていただきました。

卒業の際、数人で先生のお宅へ押しかけた時のこと、車で駅に迎えに来てくれた先生が、乗り込もうとする私たちに「ちょっと待て。靴を脱いでこれに履き替えてくれ」とスリッパを差し出しました。「え？履き替えるんですか？」と驚く私たちを尻目に、先生はトランク内に作られた下駄箱へ私たちの靴をしまい、そしてカーペットの敷き詰められた車に乗り、楽しそうに運転を始めました。学校では見たことのない先生の一面、あの時の先生の笑顔が思い出されます。芝学園に入学し、大畑先生はじめ、すばらしい先生方にお会いできたことは私の一生の財産です。

奥様のお言葉をお借りして、私も先生へ「さようなら」のかわりに言わせてください。「本当にありがとうございました」と。ご冥福をお祈りいたします。

長谷川正道 (73回) 記

2011年同窓会名簿発行に関して

前回2006年度に同窓会名簿を発行して以来、早いもので5年が経とうとしております。この間、卒業回数も100回生を越え、卒業生の総数は23,215名となりました。その同窓生の親睦を図るための良き一冊としてご活用いただける内容を目指し、編集作業を開始いたしました。つきましては会員の皆さんに、名簿に掲載される情報の内容確認をしていただきたく、名簿登録データを掲載した「名簿掲載確認はがき」を同封いたします。詳しいご記入方法は同封の「名簿掲載確認はがき」のご記入方法をご参照下さい。発行は2011年11月頃を予定しております。頒布価格は一冊3,000円の予定です。同窓会の保有する個人情報、ガイドラインを基に適正な管理・取

り扱いに努めてまいります。会員の皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

名簿委員会 委員長 山口 豊 (62回)

同窓会名簿掲載広告募集

名簿改訂作業がスタートいたしました。毎回会員の皆様から広告を掲載いただき、その収入と名簿の売上金で制作、発行をしています。今回発行予定の名簿も従来どおり皆様からの広告を募集しております。是非今回も広告の掲載をよろしく願います。なお、今回より広告をご提供いただいた皆様には、同窓会ホームページにも協賛企業(個人)として御社のホームページへ誘導できるようバナーを貼ることになっています。(広告申込時より2012年11月末日まで)但し、名刺広告は会社名とお名前だけの掲載となり、バナーは貼りません。広告の掲載金額は下記の通りとなっています。お申込は同窓会事務局、または名簿制作委員までよろしくお願い申し上げます。お申し込みの締め切りは2011年3月末日までとさせていただきます。

1ページ広告 60,000円、1/2ページ広告 30,000円
1/4ページ広告 20,000円、名刺広告 10,000円

・分会だより・

39回 第32回 芝三九会だより

我々が初めて芝中の門をくぐってから、今年で丁度70年が経った。戦争・勤労動員・敗戦・高度成長と日本の激動期を生き抜いた我々も、いつしか82～83歳の高齢となった。その為長年続いたこの会も、今回が最後と決められていた。今迄、気力・体力の衰えを感じながらも芝中の仲間と遭うと不思議と元気になれたのは、この会が我々の「心のふるさと」であったからにはかならない。



第32回芝三九会は10月8日、新宿のホテル『センチュリーサザンタワー』で開催された。出席者は初参加の亀山君・福山君をはじめ、早川君・永野君の令夫人2名を加えて合計36名の盛況であったが、常任幹事の峰島君・加藤一雄君が体調不良で欠席されたのは残念であった。会は私、佐藤の司会で進められ、まず過去1年の間に鬼籍に入られた朋友10名の冥福を祈り黙祷が捧げられ、次いで全員で芝三九会最後の記念写真を撮った。

懇親会は遠路高崎から参加された永野君の音頭で乾杯した後、会食に移った。ホテル心づくしの料理と美酒に囲まれ、どのテーブルからも華やいだ談笑は絶えず、多感な青春時代に還ったように楽しい一時を過ごした。

宴たけなわ、①小林義徳君から芝三九会誌編纂についての説明があった。39回生70年の歩みを記念誌に、併せて戦時中の学徒動員の体験記とを後輩の為、母校の資料室に保管を願う事。編纂は上原・梅田・島野の諸君にご尽力いただく事。

②梅田君から芝三九会恩師・学友のお位牌ご供養・法要のお願いがあり、賛同の諸兄からご供養料を預かった。

最後は小林君のハーモニカ伴奏つきで田辺君の指揮のもと、「校歌」「宗歌、月かげ」を声高らかに斉唱。柴田君の音頭で手締めをして閉会した。「蛍の光」のメロディーの流れる中、互いに名残を惜しみながら幕を閉じた。

過去1年間の物故会員。前野正隆・糸山真承・中山昭二・柳瀬孝徳・本多浄道・笹口陽一郎・鈴木浄正・鈴木基之・菅原雄二・山本元吉(敬称略)ご冥福を祈る。

佐藤和夫 記

(追伸)

芝三九会恩師・学友のお位牌の法要を、11月2日峰島住職の広度院で行った。10名の有志が集い、35名の奉納によるご供養を捧げ、世界された方々を偲びつつ焼香。法要を終え、校歌を斉唱して解散した。

梅田和男 記

41回/42回「悪童会」だより

*角岡大忍先生逝く:太平洋戦争勃発と共に入学・勤労動員(強制疎開の為の家屋の取り壊しや軍需工場での職工生活など)空襲による母校の焼失、終戦後の不自由な状態での勉強・卒業。

先生は悪条件の下で僕等を見守り・指導してくださいました。その後、横須賀市久里浜の「眞宝山 宗円寺」に住職として就任され、その傍ら付属の幼稚園の園長・中学の先生等のご活躍をしておられたそうです。

去る8月26日95歳にて正念往生されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

*「悪童会」懇親会:4月24日開催 30名の悪童が出席、皆80歳の大台になりどこかに経年による衰えも隠せませんが、克服して集えるのは楽しい時間です。

野口振一郎君からの寄稿文を掲載いたします。(抜粋)どうぞお読みください。

惜春の候

○今日の例会も橘・幹事の出席の点呼で始まる、お馴染みのホテルの奥の間、こじんまり、chicなサロンスタイルのroomで。点呼は自己紹介を兼ねるが客人達は訓練されて慣れたもの、元気な返事でさらりと流す。食事の人と、飲む人との交錯が全然気にならない、少人数単位の核ができて話の輪が段々と広がっていく、そう!皆々が意識している筈はないのに決して大きな声はない。却って人を落ちつかせる格好な雰囲気がつくられていくのだ。

○その年の出席者の凡そ半数は常連さん(皆勤者)で残りの半分は程良く入れ替わってくる人たちが昨年会えなかった彼、久しぶりの顔、会いたかった、なつかしい面々が戻ってきている。うーん、人の循環がよく効いている。それで当日の出席者は30名若干と毎年平均しているのだ、平仄とは云えまいが何故だ、マカ不思議...現在まで続いている不滅の手作りによる悪童会だが永久幹事・橘、宮崎両君のお骨折れもあるが...定数はないのに。チト考えてみよう。諸兄の口コミもあるかなどなど...

○悪童会は時間がキチンときている。飲む程に食する間も臆気な記憶が左胸のID確認で蘇り、新しいお喋りが足りない時間を惜しむように弾む。戦争中を生きてきた吾々だ、風通しの良い話ばかりではないが無量の感しばしあり。80年のタツキの疲れもみせず至福満な顔、適当にお洒落で意外とオプティミスのところもある。先は知れている、あわてることもあるまい、来年も元気な姿で会おうとお互いが確実に思っている。

○アット云う間の2時間だった。自分も高揚した気分で水割りも捗がいった。帰りの階段に気を配りながら、みんな今日ありがとうと、一言つぶやいた。

H22年5月 野口振一郎

橋 昌義 記

48回 加納時男同窓会顧問叙勲



加納時男(48回)同窓会顧問(前会長)が、秋の叙勲で旭日重光章を受章されました。おめでとうございます。同期生として心よりお慶び申し上げます。

私たち48回生(芝蘭会)は昭和22年4月新制中学第1期生として高い競争率の受験を経て芝中学に入学しました。120名の少人数でした。

戦災で校舎は全焼し間借り校舎で授業が開始されました。授業の合間に校庭整備作業に力を入れました。担任の半田先生の名前を揶揄して「関東半田組」と称して土木作業に従事しました。今も校庭には私達の流した汗が滲み込んでいます。これは基礎体力養成に役立ちました。授業水準は非常に高く、学年成績の順位が次の年の出席番号になる仕組みでしたが、加納君は常にトップであったと記憶しています。

小篠元校長は熱き北大理卒の新米先生として登壇。薫陶を受けた同期生から東大教授他理系研究者・技術者を輩出しました。加納君と私は、弁論部を創設し演説の練習に力を注ぎました。彼は後の議員としての活躍の基礎を養っていたのではと今になって思います。校舎も整備され大学受験を準備する段階で加納君は、国民の人気歌手藤山一郎氏の甥としてその音楽的素養を生かして東京芸大に進学するものと思っていたら東大文一に進学されました。法学部卒業後、東京電力に入社され、勤務の傍ら慶應大通信課程で経済学部も卒業された努力家でした(後に通信三田会会長に就任)。昭和60年つくば万博では電力館館長をつとめ万博を盛況に導かれました。平成元年東京電力取締役に就任し原子力分野の第一人者として活躍されました。こうしたマルチな能力を高く評価され経団連から推されて「経済界」から「政界」への橋渡し役として自民党参議院議員に立候補、見事当選、平成10年から議員活動を開始されました。

参議院議員として任期2期、12年間の活躍は素晴らしく、エネルギー、環境関連各法案の成立に尽力され、また国土交通副大臣として重責を果たされました。現在は顧問として東京電力に復帰されています。

加納君の芝学園への思い入れは特に強く、学園運営面では服部理事長(48回)に協力して理事をつとめ心強い助言と援助を行い、現在は顧問として貢献しています。同窓会活動にも若い時から積極的に協力して同窓会大会の幹事年次方式の提言実行により今日の隆盛に尽力されました。故中川会長のあと会長もつとめ、また出身大学の同窓会を活性化し芝赤門会会長の他、慶芝会副会長もつとめられました。48回生の芝蘭会、芝水会(毎月有志)に気軽に出席し政治・経済・文化多方面にわたる議論に加わり意見交換をしています。まさに同期の誇りであり、今後の御活躍を期待しています。

山口晴彦 記

52回だより

52回生の皆さん、お元気ですか？

ついこのあいだ古希を迎えたと思ったら、あっというまに2年がたちました。トシをとればとるほど、時間の流れがどんどん早くなっていくようです。そんな繰り言はさておき、皆が一様

に、「同期の仲間と楽しい時間が持てると、それが何よりの若返りの薬だ」と言ってます。ほんとに実感しますね。

恒例の秋のゴルフコンペは、11月13日に前回と同じ南総カントリークラブで4組で行いました。好天に恵まれて好スコアが続出。新ペリア方式でしたが、今回も悪運の強い斎間君が連続優勝を飾りました。

翌14日には、日比谷・松本楼で同期会を行いました。小篠先生、浅野先生をお招きして、総勢40名で賑やかにやりました。

写真はこの時のものですが、小篠先生を含めて10名ほどが帰ったところで、急に思いついて撮ったので、全員が写っていないのが残念です。



年末年始にかけては忘年会、カラオケ会、麻雀会、新年会などのイベントがぎっしりと予定されています。なかでも、浅草で日本情緒たっぷりに行う新年会には多数のご参加を期待しています。同期会幹事の誰かに連絡していただければ、日時などが決まり次第、詳細をお知らせします。また、いつもこの欄で紹介している毎月のゴルフコンペ「北芝会」も元気に続けています。この会からは、70歳を過ぎてから急に上手くなり、飛距離も大幅にアップした飯田君や種村君などの人材が出ています。貴兄も是非参加して、生涯ベストスコアの更新を目指してみませんか？ まだまだ老け込むトシではありませんよ！

白井勝己 記

53回だより

同期生佐藤行雄君が全ての公職を離れたのを契機に芝学園同窓会の副会長に推薦されていましたが本年6月の同窓会総会において承認され就任しました。

芝五三回は既に承知のとおり恒例行事として11月の最終土曜日に忘年会、春と秋にゴルフコンペを行っております。今年の忘年会は11月27日(土)銀座のサン・ミ高松において50数名が参加しておおいに盛り上がりしました。

秋のゴルフコンペは10月26日(火)秋晴のもと筑波CCで12名が参加して開催されました。優勝者は児玉君、彼はいまだにインストラクターについてゴルフの腕研鑽中です。

我々のコンペのモットーは「沢山叩けば身体に良い、少なく叩けば気分が良い」(大来君の言葉)ですので、ビギナーの方も是非とも参加してください。

本年中に亡くなって幹事のほうで把握している同期生は高橋(旧姓 田村)君(2月)、筑間義弘君(8月)、山口守君(3月)、伊藤重一君(1月)の4名です。合掌。

美澤秀男 記

54回だより 古稀の集い

開会挨拶文から(抜粋)

皆様こんばんは。恩師の先生方(小篠先生)(浅野先生)(上野田先生)(貝塚先生)(久家先生)ようこそおいで下さいました。皆様方は今夏の猛暑を乗り越えられた方々ばかりです。そして古希を迎えられた方々、誠にご同慶の至りです。昨年の同

期会で古稀の会はお前がやれと、ご指名を受け早一年が経ちました。ここにおられる幹事の方々の大変なご協力をいただきまして、本日七十余名の方々のご出席をいただき開催することができました。誠に有難うございました。

顧みますれば、私達は戦争前夜に生を享け、おぼろげながらも戦争の恐怖を知っています。私は東京大空襲の少し前に熊谷に疎開し、大空襲の夜は東京の空が真っ赤に染まっていたのを憶えています。防空頭巾、防空壕、B-29はもう死語になったのでしょうか。戦後、育ち盛りに食糧難を経験し、疎開先で空腹を訴えると祖母から十粒ほどの豆をもらい、敷居に並べて虫眼鏡で焼いて一粒一粒食べた味が忘れません。

その後朝鮮戦争が勃発し、その特需景気から序々に経済発展し、所得倍増計画に乗り、高度成長へ向かい、60年安保闘争、東京オリンピック、大阪万博と急激な発展を遂げ、そしてバブル、それが弾けて深刻な不況の中に居ります。人生計画が狂ってしまった方々も多いと思います。本当に波乱の人生です。よくまあ70年も生きてこられたなあ～と思いますと同時に両親や先輩方は苦勞の連続であったでしょう。

私もいくつかの困難に遭いましたが、校訓 剛毅敬虔、遵法自治の精神で乗り越えることが出来ました。芝学園で立派な先生方に教えを受け、多くの良き友を得て、本当に良かったと思います。学校で論語を学びました。「七十にして心の欲する所に従いて矩を踰えず」と説いています。私達凡人七十、どんどん杵から飛び出しても良いのではないのでしょうか。

私の尊敬する昇地三郎博士（しいのみ学園精神薄弱児通園施設創立者、102歳）は、70歳届してはならない、80歳だめと思ったらだめになる、90歳今からでも遅くはない、100歳前進せよ、と言っておられます。私達はまだまだ70歳、今からでも遅くはない、NEVER TOO LATE 本日皆様にお届けした記念誌と携帯ストラップの裏側に刻んであります。これからは辛いこと、いやなこと、苦しいことは極力避けて、楽しいこと、嬉しいこと、おもしろいことをして前進しましょう。

相原通宏 記

芝56会 同期会

4月17日朝起きたら雪、4月には珍しく困ったナーと思っていたら 午前中には止み、芝56会は予定通り午後3時から西新宿「野村ビル」48F桃里にて開催。すばらしい景色。

総合司会の横田胤宏代表幹事から3年ぶりの同期会開催について話があり、開会の辞を中尾誠男君。黙祷。そして恩師の小篠守正先生・上野田守先生・浅野三平先生よりすばらしいご挨拶をいただき、吉田明弘君の乾杯にて会は始まりました。



遠くは名古屋から岩間敏清君、「初めて出席した。元気なうちに皆様の顔を見たいと思った」。大阪から洞口弘君も駆けつけ、50名の参加をいただき、美味しい料理、お酒、楽しいおしゃべりにて時間が足りなくなるほど大盛り上がりしました。

出席メンバーは浅見幸雄君、安部正勝君、稲垣重久君、内山誠一郎君、蕪木元治君、川崎安平君、菊池英弥君、葛目健三君、

小島孟君、小林信雄君、酒井英彦君、佐藤弘常君、白井弘恭君、鈴木昭君、角謙三君、金子清一君、高井宣照君、高垣勝太君、田中剛君、千葉泰伸君、月野彰君、中島武君、長与勝康君、那須野克弘君、南部正敬君、長谷川正澄君、羽石竜司君、林勝彦君、福島義宣君、舟木幸三郎君、松井範行君、松尾武史君、松本敦雄君、村上和之君、森洋君、盛田武士君、安田耕平君、山崎英昭君、渡辺晃志君、山内宏一君、伊原洋君、加藤雄一君。

閉会の辞を里田が申し上げてお開きとなりました。楽しい会です。次回も又、皆様にぎにぎしくご参加下さい。お待ちしております。

幹事 里田益弘 記

第19回 57回生同期会報告

11月14日(日)13:00～16:00、川村君経営の天王洲「天厨菜館」において57回生の同期会が1年半ぶりに開催されました。受付は石渡君、吉野、2名が関所役人よろしく同窓会費も例によって徴収いたしました。

出席された先生は久家道閑先生、西原寛先生、松谷厚先生で、同期の出席は急患の連絡を受け会費のみ支払って帰られた伊藤雅男君を含め47名でした。開会にさきがけ、出席予定だっ



た村上信一郎君が11月2日事故により急逝し、通夜には角田君、北川君、村田君が参列し、その模様が北川君から報告されました。57回生では誰もが覚えている村上君のことでしたから皆が大変驚かれ残念に思われたようでした。またご子息からの返信はがきで小原正道君の今年1月6日逝去の報もコメント集で知らされました。お二人のご冥福を心よりお祈りいたします。

さて佐々木順之助君の司会で始まった同期会のほうは、乾杯の発声を一番遠方から参加の山本敏夫君が行いました。続いて先生方より近況を話していただいたのですが、久家先生の呆け防止の7か条の話がありまして、中でも恋をするという1か条には皆の関心を大いに呼び起こしたのでありました。

その後は小倉君の再婚話などもあり騒々しいくらいなエネルギーな会場の雰囲気となり、昔話や健康談義・病気自慢に花が咲き、美味しい料理を堪能し旨酒に酔いしれて、大変盛り上がりました。話は尽きないようでしたが定刻の16:00には、中締め挨拶を2番目に遠方参加の見谷君が、最後に角田君が用意したカラオケ伴奏による芝学園校歌を歌って閉会といたしました。鳴鳥君からお知らせがありましたが、次回は1年半後芝学園卒業50周年を記念した同期会、次次回は3年半後古希を迎えての同期会を開催予定しております。

今回欠席した方々、次の機会には是非とも参加してください。写真は通行人の若い男性に尾針君がぶしつけにもお願いして撮影させた集合写真です。

吉野主計 記

58回「蒲芝会」だより

2010年の「蒲芝会」暑気払いを9月4日(土)恒例の京急蒲田駅傍の「利久」で開催。今回の出席者は、写真の通り、奥沢、小宮(啓)、佐藤(栄)、塩原、菅沢、須田、善竹(茂山)、富樫、保坂、松島(徳)、森、山田(高)、渡辺(達)各氏と



小生の計 14 名 (初参加者ナシ)。

次回・新年会は 2011 年 2 月 19 日 (土) 午後 6 時から同じ場所で開催。より多くの参集を期待しています!

松島義則 記

62 回無二の会だより

前回の会報で報告したように、今年度 62 歳になる 62 回生は 4 月に無二の会を持ったので 10 月の定例会には参加者が少なくなると心配していましたが、当日は恩師 3 名、同期 15 名の出席を得ました。

久しぶりに参加の会員もおり、佐藤君提供の PC による卒業アルバムの写真などを見ながら和やかに歓談。来年の例会を楽しみに散会しました。



今回参加の同期は前列佐藤 (正芳)、松谷先生、小篠先生、谷口先生、小林 (善太)、奥山。後列広沢、落合 (純一)、本田、須原、米山 (進)、木下、森内、谷口 (直樹)、布施、山口、会川、関戸。次回 2011 年 10 月第 2 金曜日は 14 日。場所は代官山花壇。会費は会の維持費も含めて 7000 円。時間は 7 時より。今からスケジュールをメモされたし。

広沢 広 記

64 回「還暦」夢芝の会だより

台風 14 号が関東を直撃した 10 月 30 日、夢芝の会が門前仲町「心行寺双葉ホール」にて開催されました。悪天候にもかかわらず小篠先生、津山先生、そして還暦という区切りの年でもあり最近では最多の 85 名の同期が集いました。うれしかったのは大阪から駆けつけてくれた矢吹静君をはじめ、後藤守男君、高橋誠君、正岡和隆君、松本利美君、山中正彦君、若林克身君等 7 名の初参加者があったことです。

会場となった双葉ホールは「夢芝の会」会長鈴木定光君の心行寺境内にあり、建築家梅野秀一君の設計により昨年竣工した 4 階建てのすばらしい建物でした。「あなた帰ってこれなくなるわよ」という奥様の制止をふりきって出てきたという 87 歳にしてあいかわらず穏やかな紳士然としている小篠先生の来賓挨拶に始まり、「たらいから盃にうつる五十年—と昔はあったが、還暦をむかえる丈夫な身体に生んでくれたお母さんに感謝なさい」という津山先生のありがたい乾杯のご発声で会場は「久しぶり〜」「元気だった?」という会話が弾む歓談タイムに移りました。

明治記念館下村隆夫君が選りすぐった 4 人のスーパーコンピュータが会場に花をそえるなか、成田の歯科医中村始君ひ

きいる JAZZ クインテットによるライブ、恒例となった武田隆君プロデュース妖艶美女 2 人のベリーダンス、村石明君による母校の近況や今年の進学状況報告他、盛りだくさんの



内容も、矢澤一博君、倉島陽一君両名による名司会の進行で至福の 3 時間はあっというまに過ぎてしまいました。

初参加組 7 名の締め挨拶では次回も必ず参加するという力強いコメントや、案内状にあった出欠返信のないひとにも「無理によびかけるつもりはないけど、もし出たいと思ったとき案内がきてないと出られないよね。だから毎回だそうよ」という文面に感激して出席したという幹事冥利につきるうれしい言葉もいただきました。

出席者全員に赤いちゃんちゃんこの代わりに、心行寺特製「本瑪瑙のお念珠」を記念品として差し上げました。受付をやってくれた田中公栄君、斉藤猛男君ありがとう。写真とビデオをとってくれた矢吹義秀君、大橋英明君ありがとう。会場係りとして皆を気持ちよく接待してくれた稲宮豊君ありがとう。出席してくれたすべての同期のかた、出席の返事を出しながら都合で出席できなかったのかかわらず、会費を送ってきてくれた大谷彦彰君、長谷川 (斉藤) 卓君ありがとう。そしてなにより悪天候のなか出席いただいた小篠先生、津山先生本当にありがとうございます。私たちにとって元気な先生がたにお会いできるのがなんといっても一番うれしいことです。

最後に今回残念ながら出席できなかった同期生の皆さん、そしてまだ一度も夢芝の会デビューをしてないあなた、つぎに案内状が届くのは 2 年後の 2012 年です。それまでお元気で、次回は是非「今回初めて参加しました」という言葉をきかせてください。

渡慶次道廣 記

65 回「うだつ会」30 周年記念大会 開く。

20 代も終わろうとしている頃だった。とある会で数名が顔を合わせた時、誰ともなくつぶやいた言葉、「オレたちも卒業して 10 年だ。そろそろ同期会でもやらないか」。それがうだつ会発足のきっかけとなった。爾来、2 年にいちどと決めてコンスタントに繰り返すこと 15 回、今年 30 周年という節目を迎えることとなった。

30 年。はるけくも来つものかは。

この間、参加人数の増減や、会の運営方針など、さまざまに紆余曲折を経てきたわけだが、とにもかくにも途切れることなく続けてきたことには意味があったとつくづく思う。家庭と仕事以外の、まったく利害がからまない人間関係を有していること、これは得がたい財産ではないか。単に同じ学校を、同じ年に出了というだけでなく、コンスタントに会を重ね、永く時間をかけて醸成してきたからこそ得られた絆は、なにもものにもかえがたいはずだ。そんな記念すべき大会が 5 月 22 日、芝のパークホテルで開催された。

お招きした小篠、津山の両先生はあいにく別用と重なってご欠席。だが、うだつ会皆勤賞の野田先生が今回も京都から駆けつけてくださった。

「教師にとっていちばんうれしいのは教え子たちに会うこと。



実は昨年、腸閉塞を患って救急車で運ばれ絶対安静となり自分でも驚くほど足が弱ってしまったが、必死にリハビリを繰り返して、ようやく歩けるようになった。これからは案内が来れば必ず来る」との力強いお言葉をのべられ、「乾杯！」と元気にご発声。その言葉をきっかけに一同、歓談に入った。

30周年とうたったせいだろうか。今回は初参加や久しぶりの者を多く迎えることができた。

「起立、礼、着席」。学生服に身を包んでいた坊主頭の頃、先生が教室にお入りになる際に幹事長がかける号令の、一段と野太く響く重低音で、いまだに各自に鮮烈な記憶を残す福田利男。「卒業以来です」と、張り切って駆けつけた指物治郎。

永く海外駐在が続いて、ようやく日本への帰参が実現した芹川などなど、久しぶりに笑顔を見せたメンバーたち。

初参加となれば、実に卒業式以来、約40年ぶりの再会である。だが、まったくブランクを感じさせないこと、常の通りである。彼らを囲んで、いくつも歓談の輪がひろがる。

おそらく参加する側も、いきなり40年ぶりでは勢いづかないかもしれないが、コンスタントに会が開催され、案内が届いていたことで、常に会との間に一定の絆を感じ、その結果、今回のように、ふとしたきっかけで参加がかなったのではないか。継続させていくことの意味をあらためて思わずにはいられない。

我々もいよいよ還暦が間近である。今後は時間も自由になるだろうし、仕事を離れる者も出てくるに違いない。となると、ますます会の存在は意義をましてくるはずだ。

そんな声を受け、最後に石綿幹事長が「これまで隔年で実施してきましたが、これから毎年開催にはしてはいかかがでしょう」と提案し、全員が拍手で賛同。校歌を斉唱し、記念写真に納まって、一同は二次会、三次会の会場へ。

外に出れば、夜の底に初夏の風が心地よく吹き抜けていた。

式守正久 記

66回 2011年1月29日同期会開催予告

下記のように、2011年同期会を実施しますので、多数の出席を御願います。我々も、今年で58歳になります。健康・会社・家族など、いろいろと考える時期になってきました。芝学園を卒業したときに戻って、楽しいひと時を過ごしましょう。

次回から、往復ハガキでの連絡をやめて、メール(PC・携帯)・ファックスで連絡しますので、今回の往復ハガキの出欠の連絡は、必ず連絡先を記入してください。宜しくお願いします。

記

日時：平成23年1月29日(土) 18:00～受付 18:30～開始
 場所：ザ・プリンス パークタワー東京(東京プリンスホテル新館) 地下2階(B2) 宴会場「さざんか」にて
 〒105-8563 東京都港区芝公園4-8-1 電話：03-5400-1110
 会費：10,000円
 幹事：河野安龍・長井 浩・山崎 満・米山 修・山下良一・森山光春

※出席の連絡は、66回 長井 浩まで、お願いいたします。

長井 浩 記

70回 芝古稀会

去る6月12日に開催されました「第43回芝学園同窓会大会」は、私共70回生も所属する「末尾0の期」が担当致しましたが、お蔭様で盛会裡に無事円成致しました。芝古稀会といたしましても15名が実行委員として参画し、また卒業35周年の節目の年を迎え、この大会を久しぶりの同期会となぞらえ、皆様にご参加を呼びかけましたところ、50名を越える同期生に参加していただきました。ご協力・ご参加いただきました諸兄に改めまして感謝申し上げる次第であります。

なお、今回の大会を機に石井兄・川城兄のお世話でメーリングリストも整備されることとなり、今後年2回程度会が開催されるとのことです。第1回目となる納涼会は早速7月30日に開催されましたが、こちらの方も是非ご期待下さい。

今後共何卒よろしくお願ひ申し上げます。

松浦浩道 記

73回 芝七味会

恒例の芝七味会、今年は石森君の乾杯の挨拶から元気よく始まりました。今年もこの時期、7月3日(土)、霞ヶ関ビル展望階での一こまです。会社経営という重責の中、卒業以来欠かさず参加し、同窓のスピリットをしっかりと芝七味会に伝承させてきた石森君の功勞に、皆さんが心から感謝しお願ひしたのです。思い出の学舎を眼下に望み、懐かしい同窓との集いが、実に心地良く始まりました。

私事になりますが、一昨年の「卒業後30年目」を機に何十年ぶりかに同窓会に出席しました。余りにご無沙汰でいささか不安もあったのですが全くの杞憂で、芝中から入学していたら思い出が何倍にもなったなあ…などと考えてしまいます。良い学校を卒業しました。今ではむしろ芝七味会の開催が待ち遠しく思うほどです。

さて、今年の同窓会はどうでしょう？やはり芝学園のツワモノたちです。開会30分後にはもう皆さん全開です。お招きした加藤先生、西原先生も加わり当時の懐かしい出来事を思い出しながら、あちらこちらで笑い声が尽きません。入学当初の純なあいつ、色恋に目覚めた学園祭、修学旅行の夜話、部活での汗とアイス、卒業アルバムが当時の彼らを鮮明に思い出させてくれます。

宴もたけなわになる頃、ここからは全員で近況報告、1分間スピーチです。そこは男子校が故の役者ぞろい、「待ってました！」とばかりに実にタイミング良く「おちょくり」の一声が飛び交います。抱腹絶倒。大爆笑の雰囲気は「昔のまま」です。マウンテン田中君、今も熱いハートの正道！君、都会派を垣間見せる田中誠君、加賀山君、石森君、いつも温厚な清野君、



片田君、大池君、春原君、インテリなお話の川村君、松居君、片岸君、もう全員を列挙したいのですが……。皆さん「同窓の元気エネルギー」をたくさんお土産として持ち帰りました。2、3次会も含め、あつという間の芝七味会でした。

平川君をはじめ幹事の皆様、本当にご苦労様でした。ありがとうございます。皆さん1人ひとりが「よし！ 今度の芝七味会には顔をだすかあ…」との思いになると、幹事の方々もますます「芝七味会、幹事冥利に尽きる」になるでしょうなあ。皆が一丸となって100人参加を目指しましょう。

錦織貞郎 記、写真提供 松居敏哉

●大畑実先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます (幹事一同)

75回だより

9月17日五反田「魚金」で75回生の同期会が開かれました。参加者も最近では最多の22名で、山中毅、赤羽根信廣、浅野一行、安部滋、雨宮哲士、石川年也、岩間隆司、岡野浩己、笠原淳一、川上正純、河野義孝、近藤祥生、阪本優、篠木俊夫、砂原一雅、相馬栄一、武井和彦、中嶋二郎、平塚則吉、松涛達人、山本哲次、宮武雅弘 (敬称略、順不同) が参加しました。



2次会からの参加者もいたため、写真に入れなかった残念なメンバーもいますが。当日は芝学園英語科の現任教諭、石川君の誕生日にあたり49歳の乾杯を盛大に行いました。私たちの恩師も数名の方が現役で教鞭を執っておられるとのことで、今回は是非お呼びしたいなどとの意見も聞かれました。

また、心臓手術を乗り越えたK君も元気な顔を見せてくれ、今回も遅くまで大いに盛り上がりました。参加者の名前に「懐かしい」と感じたら、連絡をください。お待ちしております。

雨宮哲士 記

77回だより

国語科の和田先生は、今年で72歳になられました。先生は、現在、長野県の蓼科方面で4～11月の間、有機肥料を使い無



農薬での農業をしておられます。長野出張の時に、先生に会ってきました。写真を添付しますので、御覧下さい。

去る、10月8日、芝学園茨城同窓会を茨城県潮来市にて開催しました。参加者 鳴島 (57) 伊倉 (64) 後藤伸行・幡谷 (77)。今般の同窓会の開催地となった潮来市には、奈良・薬師寺の東関東別院の『潮音寺』があります。この潮音寺には、芝の卒業生である大谷徹夫君 (77回) が副住職として、薬師寺から派遣されています。

同君は奈良薬師寺の執事を務める傍ら、潮音寺を見、また、全国を法話で飛び回っています。そこに、大谷君の補佐の為、同期の後藤君が出家



をして、潮音寺主事として勤めることになりました。その中で、後藤君が潮来市内を挨拶回りしている際、潮来ホテルに勤務の伊倉先輩に出会い、お互いに芝の同窓生だと云うことが判明。伊倉先輩は柔道部、その話を聞いた同じ柔道部の鳴島先輩が来て下さり、今回の卒業年次を跨いだ同窓会開催の運びとなりました。仏教が取り持つご縁での同窓会、正に、芝ならではの出会いとなりました。

今後、茨城在住の同窓生を集め人数を増やしての定例開催を誓い、散会となりました。

幡谷公朗 記

79回だより

79回生は毎年7月9日に集まるぞ～！！

去る6月12日(土)浜松町付近の「楽蔵」にて、79回生のプチ同期会が行われた。

不思議なもので、卒業して25年以上も経つと、在学中にクラスが一緒になったことがないとか、当時はあまり仲がよくなかったとか、そういうことは全く関係なしに「芝の同級生」というだけで仲間意識を持てるものである。

そんなわけで、今回は18名の参加であったのだが、これからもっと大勢で集まりたいという話になり、とりあえず79期にちなんで、毎年7月9日に集まることにした。

下の写真が当日の参加者であるが、懐かしいと感じたら、是非、下記まで連絡してほしい。折り返し連絡します。

戸田成幸



(写真前列左から) 篁朝彦、藤野仁一、中田秀二、岡田知善、椎木卓哉、(中列) 岡本英之、吉田智彦、樋口祐司、松波彰彦、神田正人、藤代祐治、(後列) 野口浩昭、戸田成幸、大岩伸行、細田隆昭、小内武彦、村田真治、大平晃一郎 (計18名)

戸田成幸 記

80回 110会だより「秋の箱根」を満喫！

80回「110会 (いとう会)」の有志14名で、10月16日～17日の1泊2日、箱根に行ってきました。秋のこの時期、箱根に集うのは今回で3年連続3回目です。

ゴルフ組は、朝から箱根湯の花ゴルフ場でゴルフを楽しみ、一方、非ゴルフ組は、噴煙立ち上る大涌谷で、延命長寿で有名な黒玉子を味見。出来たて熱々で、1個食べれば7年寿命が延びるとか……「延命長寿」期待しています！ 夜は「箱根千代田荘」に全員が集合しての宴会です。ひとりひとりが近況を報告したり、ゴルフの成績発表をしたり、記念撮影したり、ワイワイガヤガヤと、まるで27年ぶりの修学旅行の様相です。

この宴会をよりいっそう盛り上げてくれたのが、薬局をやっている杉下くんによる「エンケルスター」の差し入れでした。

「1本千円のエンケル……」「あのイチローが飲んでいるエンケルよりも……」など様々な情報が飛び交い、みんなもったいなくて飲むタイミングを逃したとか。最高級エンケルの効果の程は参加した人に聞いてみてください。杉下くん、ありがとう！

食べて、飲んで、温泉入って、語り合って、気の置けない仲間との時間は、芝在学時に戻ったように楽しく、あつという間に過ぎていきます。でも、みんな少し元気になったのは間違いあ



りません。またの再会を誓って散会となりました。来年も秋に計画しますので、みなさんお楽しみに。宿泊せずに、ゴルフと宴会の参加も大歓迎です。

80回「110会」では、毎年秋に箱根旅行、6月に飲み会を企画しています。現在80名近くの方にご案内をしています。

今回の旅行は14名、今年の6月の飲み会は37名の方にご参加いただきました。理系・文系、クラス等問わず、80回の交流の場となるよう心がけていますので、ご興味ある方、「案内だけでも送って」という方は、お気軽に下記アドレスへご連絡ください。お待ちしております。それでは今回の参加者のお名前を。北沢寛、小林昌弘、佐々木和宏、佐藤公泰、清水豊、杉下智、前平幸男、牧信一、湯本康弘、紙本篤、吉井泰遠、伊藤栄章、高橋豊、善賤康裕、以上14名でした。

80回のみなさん、また次回お会いしましょう！

連絡先：紙本 篤

善賤康裕

善賤康裕 記

81 回生のみなさんへ 44

前回の同窓会報で来年の同窓会大会の実行委員を募集したところ、6人の方が引き受けていただきました。今回は代表して副実行委員長に就任した増田光利君に寄稿してもらいました。

みなさんこんにちは、増田です。来年の同窓会大会は「1」の代が幹事となります。81回では他に、相羽・坂詰・佐藤（良）・瀧澤・八山・町野が実行委員を務めます。

同級生達に暫く会っていない方も多いでしょう。既に懐かしくなっている君！是非、この機会に集まろうではありませんか！

6・11に東京プリンスで会いましょう。秋元君らのサンバチームも参加してくれます。

少々加齢臭が気になる年齢になってきましたが、元気とパワーが取り柄の81回生の力を見せつけましょう。詳細の連絡は各実行委員まで。

増田

坂詰貴司 記

82 回だより

11月6日東京プリンスにて、82回同窓会を開催しました。同期287名中、一次会には100人位、二次会にも60人ほど集まりました。（收拾がつきませんでした）5名の先生方にお集まりいただき、フランスからは、インターネットを利用した参加者もいました。地方から駆けつけてくれた仲間にも会えました。

今回は50歳、平成30(2018)年11月10日土曜を予定しています。なんとしても、音信不通となっている127名を探し出し、全員参



加を目標としていきたいと考える。写真をweb上に公開しています。閲覧希望者は以下にPCメールからご一報ください。

二瓶治彦 記

「芝蹴徒会総会開催」

4年に一度、W杯の直前にサッカー部OB会・芝蹴徒会は総会を開催します。本年は南アフリカ大会。あんな熱狂が待ち受けているとも知らず、5月22日、六本木ホテル・アイビスにて初代から若手までの60名参加のもとパーティーを開催しました。



途中、サッカー部同窓の結婚式に参席した若手同窓が会場に駆けつけてくれ、その報告にやんやの喝采が沸いたり。芝のもとにつながる、盛会となりました。若手の諸君、どんどん参加してください。

角井魯善（78回）記

東電芝中会開催報告

去る2010年11月8日（月）に、中央区築地にある東京電力「築地東友倶楽部」にて東京電力社員及びOB17名が参加し「東電芝中会」を開催しました。約4年ぶりの開催となった今回は、会の冒頭に、ご挨拶として加納先輩（48回）よりこれまでのご活躍や日本の抱える課題についての熱い思いをお話しをいただき、その後鳴島先輩（57回）より乾杯のご発声をいただくと同時に、本会を毎年継続的に開催し同窓生同士の繋がりを発展させるようにとの激励をいただきました。



途中、参加者よりそれぞれ自己紹介をいただき、在学中の思い出話や最近の芝の様子等の話題で盛り上がりしました。

今回は20歳代から30歳代の若手メンバーが8名参加するなど、幅広い年代のメンバーが集まったことにより、世代を超えた交流が生まれたほか、業務に関するアドバイスも盛んに行われ、非常に貴重な機会となりました。

会の最後には、今回の会場を手配いただいた鈴木先輩（71回）よりご挨拶をいただいたほか、参議院議員を12年勤められこの秋に旭日重光章を叙勲された加納先輩に花束を贈呈し記念撮影を行い、散会となりました。

今後も芝の仲間の輪を広げ、会の更なる振興を図っていききたいと思います。

石井卓行（93回）記

2010 芝稲門会便り

10月15日、ビルに映ったオレンジ色の東京タワーにみとれる夕刻、東京プリンスホテルにおいて開催された芝稲門会。11年ぶりの参加とあってただでさえ緊張する中、ゴールデンカップ入口の受付におられた山口豊先輩（62回）の低い声と善竹十郎先輩（58回）

の和服姿に背筋が伸びてタイをきつく締め直すも、始まってからは先輩方からたくさん声をかけていただき、その緊張も解れて瞬く間に時間が過ぎてしまいました。

会計報告の後、服部正中会長(48回)による乾杯のスピーチがなされ、歓談に入ると新入生を含む若手参加者によるスピーチが続きました。山口弘毅副会長(50回)のご厚意によりいつも以上においしい料理をいただきながら、親子孫のような三世代にわたる先輩・後輩がいたるところで大いに話に盛り上がっていました。



盛り上がり佳境に入ると、永井守昌先輩(45回)による指揮の下、皆肩を組んで『紺碧の空』。まるで神宮のスタンドにいるかのように、当日最年長の末次誠先輩(37回)もご満

悦でした。早稲田、芝へとエールを送り、締めはもちろん善竹先輩による五本締め。これにてお開きであります。

旧交を温めると同時に新たな出会いがある場。社会人になってから、人との縁の大切さに改めて気づかされる中、このような会合を毎年催せるのは芝学園同窓会の中でも数多くはありません。この伝統を守っておられる先輩方から受け継いでいくのも、また変えていくのでさえ参加しないことには始まりません。年齢、自・他称の別は問わず若手の皆さんの大勢の参加をお待ちしております。次回は2011年10月21日(金)の開催です!

神田雄亮(94回) 記

第19回 慶芝会開催

2010年10月15日(金)銀座交詢社にて第19回慶芝会が開催されました。来賓に芝学園の中村明德先生をお迎えし、新入生5名を含む40名が出席しました。冒頭、中川順名誉会長(31回)、澁澤明顧問(48回)のご冥福をお祈りし、全員で黙祷。

その後、恒例の加納時男副会長(48回)のアカーディオン演奏の下、「塾歌」を斉唱し、山口晴彦会長(48回)の挨拶にて開会、中尾誠男幹事長(56回)から諸報告を行いました。

会計報告を新しく就任の安藤信之先輩(72回)、会計監査報告を白井勝己先輩(52回)から行い、無事承認されました。本年は105回生を含め33名が入学し、平成22年10月15日現在500名余の会員が在籍しておりますが、来年は若手の皆さんより一層積極的な参加を会員一同お待ちしております。(今年は例年にも増して、若手のみなさんの参加がありました。この場を借りてお礼申し上げます)

宴の中では、上記新会員の紹介と、出席者からの近況報告もあり、ピッフェ形式のおいしい食事に舌鼓を打ちつつ先輩後輩を超えて親睦を深め、楽しい時間を過ごしました。



会の締めは、「慶應賛歌」「芝学園校歌」「若き血」を先輩後輩分け隔てなく肩を組み熱唱。里田益弘副幹事長(56回)の閉会の挨拶を以て、名残を惜しみつつ散会となりました。

なお、2次会は若手のメンバーを中心に銀座BRBの会員制サロンに足を運び、ゆったりとした空間の中、各自思い思いの時を過ごしました。

参加の皆様はもちろん、残念ながら今回は参加頂けなかった皆様も、次回の慶芝会には是非お越し下さいませよう、お願い致します。

青木一浩(92回) 記

第15回芝赤門会総会報告

去る2010年10月16日(土)、第15回芝赤門会総会を東京大学駒場キャンパス内のレストラン「ルヴェゾンヴェール駒場」(旧同窓会館)にて開催しました。ルヴェゾンヴェール駒場での開催はこれが2回目ですが、旧同窓会館から建て替わって非常に洒落なレストランに生まれ変わり、会合や食事も楽しめるようになりました。同時に、懐かしい東京大学駒場キャンパス内にあるということで、早めに来てキャンパス内を散策する参加者もいるなど、好評でした。

さらには、会場がまさにそこが学び舎である学生にも参加がしやすかったためか、多くの学生・新入生会員にも参加してもらうことが出来ました。参加人数は例年を上回る30名、うち学生12名(新入生3名)と、若い顔ぶれが多く、懇談も大いに盛り上がりました。

毎年恒例の「参加者全員1分間スピーチ」では、出席者中最年配となった小島靖先輩(42回)から、芝学園を卒業したばかりの105回生の池州君・久慈君まで、幅広い年代の出席者から、それぞれ芝学園在学時の話や仕事の話・近況報告など、興味深い話を伺えました。2時間では語り足りないほどだったかと思えます。最後は、これまた恒例となっている加納時男会長(48回)のアカーディオン演奏を伴奏に、東大応援歌「ただ一つ」と芝学園校歌を全員で熱唱し、盛会の内に幕を下ろしました。

総会終了後、さらに学生コンパ長の藤井幹也(93回)を中心に学生・若手の有志を集め、渋谷にて学生コンパも開催、学生らの親睦を深めました。今後さらに学生・若手の繋がりを深めていければと思っております。



参加者(敬称略): 小島靖(42)、加納時男(48)、山口太郎(51)、吉田弘正(51)、鳴島博(57)、中村博昭(58)、宇田川裕一郎(58)、新井仁(61)、年岡晃一(61)、早野睦彦(61)、松崎幸一(61)、吉田隆男(61)、加藤一成(70)、三宅将生(87)、小池崇文(86)、米田新(91)、石井卓行(93)、藤井幹也(93)、伊藤岳大(100)、坂田俊(100)、森田寛幸(100)、小穴康介(102)、高橋悠一(102)、千野雅紀(103)、伊藤大河(104)、清水敬太(104)、武田俊一(104)、秦大樹(104)、池州諒(105)、久慈泰山(105)

米田 新(91回) 記

■ 31 回

毎月第 3 水曜の昼過ぎに 31 回生が集まる「三水会」、場所はわが期の野川真宏君が五代目の日本橋「藪伊豆総本店」、かつては十数名集まるのが恒例だったが、90 歳代になったいまは 5,6 人。だが談論風発、若返りを楽しむ。店は昨年の日経紙に、東京の蕎麦や 600 店で「めん、汁、店構え、器の 4 点でベストに 3 に入る」と評価を受けた。長生きの余得、これからも集まる。(如日本橋 3-15-7・電 3242-1240)

孫田良平 記

■ 32 回

我々のクラス芝鳳会の 208 人は昭和 13 年芝中を卒業し、72 年を経た現在 28 人が生存している。そのうち安達博、池上晴也、加藤義朗、川中子健彦、高塚益、矢代裕三、河合義男、の 7 人が本年 10 月 28 日新橋第一ホテルでクラス会を催した。皆いろいろの人生を歩んだが、今は再び君と僕の間柄で昔話を楽しんだ。

河合義男 記

■ 37 回 37 芝会だより

今年の異常な猛暑に耐え抜き 37 芝会の諸兄如何にお過ごしですか。まだまだ元気な先輩が多数居られます、負けられません、我々も毎日を大切に健康に注意して天寿が来る迄生きよう。この会報が配布される頃は既に今年の三七芝同期会は盛大の上終了しているが、昨年の出席数を上回る 25 名の申込があり出席すると若返る当会は有名。来年も開催したいと会長幹事期待する次第報告は次回。

鈴木博視 記

■ 38 回

今年の酷暑を何とか頑張ってくださった事と存じます。

80 歳を最後に同窓生会を閉じてしまい、唯一の三緑会の集まりだけになってしまいました。是非入会をと 2 度に亘ってお願いしましたが、何の反応もなく残念に思っております。どんな毎日を過ごされておられるのか知りたいと思っております。それぞれの友情を通い合いたい、それを皆様にお伝えしたいと願って已みません。良い余生を思い出を忘れませんように。

久家道閑 記

■ 43 / 44 回

皆さんお元気ですか。2010 年 10 月 5 日(火) 43・44 回傘寿同期会を日比谷松本楼で開催しました。80 歳を迎えた 26 名の参加で盛会でした。なお今回 30 名の方が出欠の返事がありませんでしたがお元気ですか。

訃報：前会報 95 号で連絡した 5 名の外に亀田陽三君、矢野秀一君、倉光秀行君、佐藤保雄君が亡くなり、喜寿クラス会以降 3 年で 9 名の方が亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りします。

諸葛弥太郎 記

■ 45 回 ☆恒例の同期会と部活動

・今年も 5 月 13 日に日比谷松本楼で、恒例の同期会を開催、50 名出席の盛会でした。亡くなった同期生の奥様も出席され、夫婦同伴も増えて、華やかさが加わりました。来年は 5 月 12 日(木) 午後 1 時より松本楼で行います。

・俳句、ハイキング、美術講座、囲碁は月 1 回、カラオケは不定期に行っています。

・同期の小倉康三朗、松山秀介の両氏が亡くなりました。

永井守昌 記

■ 46 回

6 月 12 日の同窓会総会には我等四六回生は金田、坂谷、日色、白石の四名が出席し、大いに盛り上がった。昨年迄は一人であり、日色君からは「白石の切実な勧誘には断る訳にはいかないよ」と

の世辞で気を良くした次第である。我々と同テーブルには故西垣戸端雄君の実兄である西垣戸和雄先輩が座られ、話を交わす事が出来たことは、総会ならでのことと感服した。それにしても先輩諸氏は皆、お元気でした。

白石 弘 記

■ 48 回

芝蘭会は 6/12 の同窓会大会に併設の集いに 20 名、11/6 の銀座天厨菜館に小篠先生ご夫妻をお招きして 50 名参加の盛会でした。来年度は大野・岡野君中心で同じ会場、11/5 開催です。秋の受勲で加納君が旭日重光章、おめでとうございます。

訃報：山本忠雄君が 4/8 に、今田英雄君が 8/5 に、岡村貞夫君が 9/28 に逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

海老澤成亨 記

■ 49 回 四九会短信

四九回生もついに後期高齢者の仲間入りとなり、ご同慶の至りです。にもかかわらずサロン出席者が 30 名を越える勢いです。明年は春夏秋冬に集まり日を変更する予定です。いずれ世話人さんから連絡いたしますので、是非多数の方の出席をお願い致します。なにしろ皆は君の顔を見たくて集まるので健康に留意して参加してください。

石田隆一 記

■ 60 回

6 月 12 日(土)に開催されました第 43 回同窓会大会は山田鈞也大会実行委員長を中心に「0 の期」幹事の皆様のおかげで、盛会となりました。60 回生の皆様には多数参加して協力していただきありがとうございます。

これを機に「0 の期」の縦の繋がりも深めてまいりたいと思います。

熊谷俊明 記

■ 61 回

来年 6 月 11 日(土)に開催される同窓会大会においては、卒業回数末尾「1」の学年が大会の企画・運営を委託されており、我々 61 回生は活動の中心となることが期待されています。すでに有志のメンバーによる実行委員会が結成され、役割分担が決まって準備が始まっています。同期の北方謙三君には講演をお願いしています。61 回生の皆さん、一丸となって大会を成功させようではありませんか。

吉田隆男 記

■ 72 回

72 回卒の皆様お元気ですか？平成 23 年 6 月 11 日の同窓会大会は末尾「1」の期担当の大会です。私達「2」の期はその次です。名簿を整理していますので別紙の石原メールに必ず返信してください。

9 月 25 日に清信茂夫君が逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

同期の情報は石原か、下記の佐藤携帯までください。

佐藤 隆 記

■ 102 回

皆様如何お過ごしでしょうか!! 多くの方が来年から新社会人としての道を歩まれることと思います。私は同窓会や勉強会を通じ、芝学園の世代を越えた人と人との繋がり大切さを実感しております。再来年の同窓会大会は、私たち 102 回生も幹事学年となります。廃材での自炊生活など、幾多の困難を乗り越えた我々だからこそ出来る”何か”あると確信しています。懐かしい母校に集いましょう!!

小野寺孝文 記

財務部より

会報前号に掲載しました平成21年度決算案・22年度予算案は、さる6月12日に開催された同窓会総会におきまして可決承認されました。紙上でご報告申し上げたとおり会費収入につきましては、21年度は507万円(2,534口)とやや持ち直した観はありますが、やはり目標の600万円(3,000口)には届かないという結果に終わりました。

一方今年度の会費納入は8月31日現在で比較すると、

平成14年度 358万円(1,790口)

平成15年度 371万円(1,855口)

平成16年度 332万円(1,663口)

平成17年度 334万円(1,671口)

平成18年度 370万円(1,853口)

平成19年度 349万円(1,748口)

平成20年度 375万円(1,876口)

平成21年度 375万円(1,876口)

平成22年度 329万円(1,644口)

*9月30日現在では334万円(1,671口)となり、例年をかなり下回る数値で推移しておりますが、既に同窓会大会も終了し年度も後半に入っておりますので、今後の納入状況の推移が気になるところであります。会費収入の安定により、さらに財政健全化を推進させるためにも、引き続き目標(600万円・3,000口)達成に向けて会費納入をお願いしていく所存です。

今年度も早々に年会費をお納めいただいた方々には厚く御礼申し上げますと共に、会費未納の方には改めてご協力のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。また、各期理事の皆様には、同期会の連絡や開催の場を利用して、一人でも多くの同期の方に会費納入を呼びかけていただきませう、合わせてよろしく願い申し上げます。

同窓会の活動は会費と寄付金でまかなわれております。

・年度会費 2,000円

・納入方法 自動払い または同封郵便振替用紙

・郵便振替口座 00100-0-98775 芝学園同窓会

*「振込用紙」は事務処理の都合上、毎回一律に「会報」に同封されております。ご注意下さい。

○寄付金口座について

同窓会活動の充実のために「ご寄付」をお願いしております。あくまでも「ご寄付」ということでありますが、同窓会活動を支えるもう一つの重要な財源であると考えております。ちなみに今年度は8月31日現在78件37万8千円のご芳志を頂戴致しております。今後とも皆様よりのご芳志をお待ち申し上げます。

寄付金口座 みずほ銀行 新橋支店

普通預金 1667890 「芝学園同窓会寄付金口座」

○年会費自動払いについて

なお、自動払い申込み数は1,032名と若年層の会員を中心に漸次増加しておりますが、引き続き各期理事の皆様には便利な「自動払い制度」について大いに宣伝していただきたく、ご協力のほどよろしく願い申し上げます。

申込用紙・資料等ご希望の方は、同窓会事務室までご請求ください。また、本年も7月1日の引き落しの時点で、昨年同様約一割強の方が残高不足で引き落としができないという事態が生じております。ご利用の方は口座の確認をよろしく願います。

105回生の皆さんへ

新卒業の105回生の皆さんには、入会金をいただいておりますので、本年度の年会費は免除されます。

財務部長 松浦浩道 (70回)

同窓会ホームページリニューアル進行中

2年前に立ち上げたホームページを完全リニューアル中です。

ただいま若手の同窓生を迎えたHP委員会でリニューアルを行っております。同窓会の会員が興味を持てる企画、役に立つ企画、先輩後輩が交流できる企画など楽しい内容が盛りだくさんですので、ご期待ください。閲覧方法ですが、インターネットのグーグルなどの検索エンジンにて「芝学園同窓会」で検索いただければトップに表示されます。

HP企画委員会に参加いただける会員を募集中です。企画は同窓会で、制作は外注というスタイルですので、作業の負担はありません。お気軽に同窓会事務局へお問い合わせください。

事務部 三浦尚城 (65回)

編集後記 (次号原稿締め切り)

編集作業も順調に進み、明日からは早いもので師走に入ります。年明け1月10日発売の文藝春秋「同窓生交歓」に、59回卒業の先輩方が登場されます。同窓先輩方のすばらしいご活躍に、後輩とし大変光栄に思います。

さて、次回春号の締め切りは来春4月9日(土)を予定しております。6月11日(土)開催の同窓会大会詳細チラシなども同封し、5月上旬にはお届け予定です。会報掲載記事に関するご質問などございましたら、HPからのメール、または事務局宛電話などで、お気軽にお問い合わせください。

会報編集委員 庄野 修 (69回)

本年第44回同窓会大会に向けて 第3代校長・渡辺海旭師の評伝を刊行

本会報巻頭でご案内のとおり、来る2011年6月の第44回同窓会大会は、「建学の父」渡辺海旭師の顕彰を主題として開催されます。

海旭師は、明治34年、第一期浄土宗海外留学生に選ばれてドイツで比較宗教学を修め、帰国後は伝統仏教の再生に献身。

母校・芝中学校校長を22年間つとめる傍ら、東海中学、宗教大学(現大正大学)、東洋大学の設立・運営にかかわり、近代化が急がれた日本のために、有意な人材を数多く育成。また、近代化の矛盾のひとつである労働者救済運動に宗派を超えて取り組み、「社会事業」という言葉は海旭師の「造語」だといわれています。また、新宿中村屋の創業者にして文化サロンの主宰者・相馬黒光、孤高のジャーナリスト・徳富蘇峰、カルピスの創業者・三島雲海らと交わるなど人脈も多岐にわたります。

そのような一つの器にはおさまりきれない桁外れた人物であった海旭師の足跡を、芝中第3代校長就任100年の節目に当たり、芝学園同窓会有志の手で語り継ぐことにしました。

すでに2008年より、ノンフィクション作家の前田和男氏(60回卒)が、宗門のオピニオン誌「月刊浄土」(編集長は68回卒の長谷川岱潤氏)に、海旭師の評伝小説「壺中に月を求めて」を連載中であり、これをベースにして、単行本にまとめます。

このプロジェクトに対して、ご予約などご支援・ご協力を承っております。詳細は同窓会室(03-3432-5994)までお問い合わせください。

担当 中川 一(61回)